

第20回川崎市文化芸術振興会議会議録（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成21年7月28日（火）
午前10時00分から11時30分まで
- 3 場所 JA セレサみなみビル5階会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（会長）、垣内委員（副会長）、城谷委員、野畑委員、
林委員、星川委員、渡辺委員
欠席委員：岩森委員、廣瀬委員、前田委員
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
野本室長、村石主幹、服部課長補佐、植村職員
- 5 議題
 - (1) アワードについて
 - (2) 平成21年度文化アセスメント対象事業の日程について
 - (3) その他
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

- 事務局 半数以上の委員が出席しているので、川崎市文化芸術振興会議規則（以下「振興会議規則」という。）第4条第2項の規定により、会議が成立していることを報告する。続いて、配布資料の確認を行う。議題資料及び参考資料1～5を事前に送付している。追加資料として、議題資料2及び第19回川崎市文化芸術振興会議（以下「振興会議」という。）会議録（摘録）を配布した。議題資料が追加されたため、事前に送付した議題資料は「議題資料1」として取り扱う。振興会議規則第4条第1項の規定により、これ以降、澤井会長に議長として議事進行をお願いしたい。
- 議長 それでは第20回という節目を迎えた振興会議を開会する。まず、アワードについて、事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局 アワードについては、平成18年6月14日開催の第6回振興会議で議論いただいているが、今回は、川崎市文化芸術振興計画（以下「振興計画」という。）が策定された後の会議として、あらためて議論いただきたい。これまでの功績表彰だけでなく、人材育成や奨励的な側面も必要と考えている。川崎市の既存の表彰

制度としては、参考資料1の「川崎市文化賞等」と参考資料2の「かわさき市美術展」のほか、参考資料3に示したような制度があるが、基本的には功績を表彰している。今後、新たなアワードを検討していくに当たっては、振興計画にある5つの取組の方向性に基づき、計画的に実施していくことが必要である。募集方法や基準、川崎としての特色のほか、財源の確保が課題となる。

- 澤井委員 川崎市文化賞等の選考委員はどのようなメンバーで構成されているか。
- 事務局 「川崎市文化賞等実施要綱」に基づく対象となる分野ごとの学識委員及び行政職員で構成されている。
- 澤井委員 アゼリア輝賞は若手の奨励的・人材育成的賞だと聞いているが、受賞者に対する活動のサポートなどは実施されているのか。
- 事務局 制度としてのサポート体制はできていない。市の賀詞交換会などで、受賞者に演奏してもらうことはある。
- 城谷委員 文化賞等の選考委員の氏名は公表されているのか。
- 事務局 市長から委嘱しており、公表している。
- 城谷委員 文化振興基金は、文化賞等や市美術展などの事業の原資になっているのか。
- 事務局 文化振興基金の原資は特定の事業に使用されておらず、運用益を川崎市文化財団の補助金の一部に充当している。文化賞等や市美術展の事業は、毎年度の予算の中で実施されている。
- 垣内委員 国の基金では、積立金の大部分が行政による出資であることが多いが、文化振興基金では原資の内訳はどのようになっているのか。
- 事務局 当初の目標額は寄附2.5億円、市から2.5億円で計5億円としていたが、目標には達していない。平成20年度末現在、累計で寄附金は約1億5900万円、市の一般財源から約1億6700万円、合計約3億2600万円となっている。近年は寄附の実績は少なく、市の一般財源からも積立はしていない。
- 垣内委員 企業が厳しい状況の中でもメセナなどに取組んでいるが、社会貢献している企業に対するアワードがあると、支援者へのインセンティブになるのではないか。
- 林委員 企業が運営費や賞金を負担し、企業の名前をつけたアワードが知名度を上げている例もある。賞では、国際的にも知名度のある審査員の選考であることと、イメージとして名称が重要である。アゼリア輝賞がつけられた経緯や選考方法を聞きたい。
- 事務局 アゼリア輝賞は、平成15年度に若手・中堅の方を表彰するために新設され、市の花である「つつじ」の英語の名称を使用している。「アゼリア」は、地下街の名称にも使われており、市民にはなじんだものである。
- 林委員 推薦者は庁内及び文化団体等とあるが、最近の若い芸術家は団体に属さないことが多い。
- 事務局 その団体に所属していない方でも、その団体にゆかりのある方であれば推薦することができる。
- 澤井委員 市内在住が要件となるのか。
- 事務局 在住でなくても、出身であったり活動の拠点であったり、川崎市にゆかりがあればよい。
- 澤井委員 文化賞等以外に大きな賞はあるのか。

- 事務局 参考資料3に記載しているが、大きなものとしては「川崎市市民栄誉賞」がある。市民栄誉賞は文化に限定されておらず、また、文化賞等のように推薦によるものではなく、市長が行うものである。
- 野畑委員 文化賞等選考委員も務めていたが、アゼリア輝賞が新設されるまでは、若手や中堅の方に賞を贈呈することができなかった。
- 澤井委員 功績表彰と奨励的な表彰では表彰の意図が全く異なるものであり、同じ仕組みで実施しているのは無理がある。人材育成的なアワードは選考委員も別にし、受賞後の育成計画も実施する仕組みができれば、優秀な若手芸術家が川崎に拠点を置くようになる。
- 林委員 例えば美術では、若手芸術家は賞を受けること以上に作品を見てもらう機会を求めている。川崎市には市民ミュージアムなどの美術館があるので、個展を開催する機会を与えるなどしてはどうか。また、岡本太郎美術館の岡本太郎現代芸術賞（以下「TARO 賞」という。）はアート界で非常に知名度が高く、若手の登竜門として存在し、受賞した作品は美術館で展示される。美術ですでに奨励的アワードがあるので、新たに若手向けの賞を作るのであれば、市が力を入れている音楽に特化してはどうか。
- 野畑委員 アゼリア輝賞は、優秀な方が受賞しているが、あまり知られていない。市がもう少し受賞者を積極的にアピールして認知されるようにするべき。以前、川崎市で実施されていた音楽コンクールでは、入選した人が演奏会を行う機会があった。
- 林委員 川崎市は音楽と映像に力を入れているので、その2分野に特化すべきでは。
- 澤井委員 人材育成アワードの審査員に高名な方を呼ぶことで、賞に権威を与えることが可能である。また、文化財団など行政から少し離れたところで専門家を含めたアートカウンシルを設置し、受賞者の選考からフォローアップまで実施する仕組みを作る方法もある。
- 野畑委員 有名な方を審査員に招くと、選考委員会の日程調整や謝礼の面で課題が出るのが考えられる。川崎市で実施されている賞には、民間企業は関わっていないのか。
- 事務局 文化賞等や市美術展などの表彰は、市の予算で実施している。
- 垣内委員 川崎市内の文化芸術施設には、それぞれキュレーターやアートマネージャーなどの専門家がいる。新たな組織をつくるだけでなく、それらの施設や専門家を活用することも人材育成につながることであり、アワードと連動させることが大切ではないか。
- 澤井委員 審査委員長に財界の著名人などを呼んでもいいのではないか。
- 林委員 すでにある TARO 賞との差別化が必要である。
- 事務局 TARO 賞は現代美術の立体作品が中心になっている。
- 渡辺委員 市には美術館が2つあるが、その間の交流があまりないように思われる。連携することが大切ではないか。
- 事務局 美術館は教育委員会が所管しており、館長会議などは行われている。
- 議長 時間が迫ってきたので、次の議題に移り、最後に時間があれば再度議論することとしたい。続いて、文化アセスメント対象事業の日程について、説明をお願いしたい。

- 事務局 第19回会議後に日程が決定した対象事業があるので、議題資料2に示した。取組を見る分担を実施グループ内で決める際の参考としていただきたい。また、対象事業の各取組について、平成20年度実施内容での調査・評価シートが提出された。内容を確認し、必要な資料等があれば事務局に御連絡いただきたい。
- 議長 直近の事業は10月に実施されるので、それまでの間は、各委員が配布された資料によって取組の内容把握に努めることになる。
- 城谷委員 自分の実施グループの担当でない事業については、取組を見たり意見を出したりできるのか。
- 事務局 役割分担のためグループ分けを行ったが、文化アセスメント自体は振興会議全体として行っていくものである。都合が合えば他のグループの取組も見てください、全体会議の場で意見をいただきたい。
- 垣内委員 他の予定も入ってきており、取組の実施日程はなるべく早めに決めてほしい。
- 渡辺委員 A音楽文化振興事業には6つの取組があるが、すでに来年まで予定が詰まっている状況である。
- 垣内委員 グループ内で調整・分担し、誰も行かない取組はないようにしたい。
- 議長 日程が決まり次第、連絡や調整を事務局に弾力的に行ってほしい。
- 城谷委員 今回の会議での議論の内容は、今後どのように反映されるのか。
- 事務局 諮問・答申という形式はとっていないが、振興計画を推進していく中で、施策に転換できる部分を市民文化室として検討したい。また、来年度の文化アセスメントの対象事業の選定に向けて、テーマや考え方を部会で整理していきたい。
- 議長 部会委員の日程を調整し、9月か10月ころに開催し、年内に全体会議で選定について議論したい。10月以降は今年度の文化アセスメント対象事業の取組を見るなど作業も行っていく。これをもって第20回振興会議を閉会する。

(会議終了)